

第3節 病 棟

1 第1病棟

<病棟機能>

- 精神科急性期治療病棟入院料1 算定可能な急性期病棟である。
- 主に急性期の集中的な治療を要する精神疾患患者を対象に、修正型電気けいれん療法を目的とした患者等を受け入れている。
- 感染症（結核・新型コロナウイルス感染症等）を合併した患者を治療する専用病室を備えている。

<病床数>

保護室	6 床
個 室	12 床
2 床室	4 床
4 床室	8 床
計	30 床

<スタッフ>

医 師	5 人 （兼務 2 人）
看護師	20 人
精神保健福祉士	2 人 （兼務 1 人）
公認心理師	1 人 （兼務 1 人）
作業療法士	1 人 （兼務 1 人）

<活動報告>

プログラム	内容	開催	回数	患者数	スタッフ
患者ミーティング (ふれあいの会)	入院集団精神療法 他者（他患者・病院スタッフ）との交流を通し、 対人関係を学ぶことを目的としている。	月 2 回	21	96	68
レクリエーション	精神科作業療法 変化の少ない入院生活において、季節の行事や調 理 OT 等を行い入院生活の楽しみ、気分転換の機 会にもなっている。	月 2 回	21	89	62

<まとめ>

令和5年度は感染症専用病床で COVID-19 陽性患者を 15 名受け入れた。また、修正型電気けいれん療法を 131 件施行し、合併症割合は全体の約 15.2%であった。

精神科急性期治療病棟入院料1の算定基準を遵守できるよう、家族を含めた生活支援を視野に入れた退院支援をチームで実践している。

1 救急病棟の後方支援病棟としての役割と他病棟からの患者受け入れ

当病棟は救急病棟(第6病棟)の後方支援としての役割を担っている。今年度も、COVID-19 陽性患者を受け入れつつ、第6病棟はじめ他病棟から計 20 名の患者を受け入れた。また、COVID-19 の 5 類感染症移行に伴い、11 月で感染症病床 2 床の確保を終了し、12 月からは一般病床としての運用を開始した。病床利用率は 69.1%と前年度と

同値であったが、病棟状況に応じた転出入は、多職種連携のもとスムーズに行えた。

2 安全な病棟運営

昨年度に引き続き、COVID-19 陽性患者の受け入れに伴う感染対策を継続したが、COVID-19 の病棟内クラスターが発生した。改めて、PPE 着脱や手指衛生強化に取り組んだ。

2 第2病棟

<病棟機能>

- アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症等の治療を行う専門病棟である。
- 依存症治療の動機づけや断酒・断薬を継続するための集団プログラムの実施、自助グループやリハビリテーション施設のプログラムの活用により、回復のための援助を行う。

<病床数>

保護室	4 床
個 室	4 床
2 床室	12 床
4 床室	20 床
計	40 床

<スタッフ>

医 師	3 人（兼務 1 人）
看護師	19 人
精神保健福祉士	1 人
公認心理師	1 人
作業療法士	1 人

<活動報告>

プログラム	回数(回)	参加人数(人)			
		患者	医師	看護師	療養援助
レクリエーション	62	823	0	102	0
スマイルイベント	11	187	5	16	22
RD メッセージ	4	50	1	5	0
埼玉ダルクメッセージ	9	88	0	8	0
フリッカメッセージ	5	16	0	5	0
マックメッセージ	22	300	0	23	0
作業療法	32	448	0	35	35
ウォーキング	7	65	7	14	0
ヨガ・瞑想	19	199	0	20	19
SGM	26	421	20	50	21
CST（再発予防プログラム）	44	636	41	82	47
勉強会	41	682	42	42	36
AA 紹介	2	33	0	2	0
断酒会紹介	3	47	0	3	0
断酒会メッセージ	13	154	0	14	0
AA メッセージ	26	321	0	26	1
NA メッセージ	6	61	0	6	0

プログラム	回数(回)	参加人数(人)			
		患者	医師	看護師	療養援助
残棟プログラム	298	4,586	0	296	0
集団栄養指導	5	67	0	5	4
酒歴・薬歴発表	14	238	16	23	14
断酒会参加（こころの広場）	0	0	0	0	0
AA 参加（下落合）	0	0	0	0	0
DVD 鑑賞	13	139	0	13	0
テキストミーティング	28	430	2	30	18
スタッフ合同ミーティング	14	215	2	17	15
年末・ニューイヤーミーティング	5	69	0	5	0

<まとめ>

1 病床利用状況

病床利用率は 72.0%の目標に対し、70.5%であり目標値に近い数値であった。これは、今年度経営への具体的参画として病床利用率の向上を病棟目標に掲げ、医療連携室からの緊急入院と他病棟からの転入（5,6 病棟の後方病棟として依存症患者以外の受け入れも積極的に行う）を柔軟に受け入れたことが主な要因であると考えられる。

2 実践力の強化

行動制限最小化の推進として、「センサーマットチェック表の作成」に取り組んだ。センサーマットの使用であっても行動制限である意識の醸成とともに、観察する確かな目（スキル）を養うことに寄与した。その結果、令和 5 年 6 月に運用を開始して以降、センサーマットを使用した患者の転倒インシデントの発生は 1 件のみであり、適正な運用ができている。

3 コロナ禍におけるプログラムの実施

令和 5 年度 5 月からは COVID-19 感染症が 5 類感染症へ移行となったことを受け、一部対面での自助グループメッセージや自助グループへの参加を再開した。退院前訪問を含むスタッフ同伴外出は、感染対策を講じながら多職種で連携し積極的に実施した。

3 第5病棟

<病棟機能>

- 児童・思春期の精神疾患患者の治療を行う専門病棟である。
- 埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校を併設している。
- 医療・教育・保健・福祉などの各機関と連携し、治療の継続を図っている。

<病床数>

保護室	3 床
個 室	27 床
2 床室	－
4 床室	－
計	30 床

<スタッフ>

医 師	4 人
看護師	21 人
精神保健福祉士	1 人
公認心理師	3 人
作業療法士	2 人

<活動報告>

(1) 病棟ミーティング

週 1 回水曜日に、病棟に関わる全ての人達の間で双方向性のコミュニケーションを促進すること、病棟の子どもたちに起きている関係性や力動を理解し受け入れることを目的に実施している。コンダクターは医師、コ・コンダクターは看護師または療養援助部職員が行っている。

(2) レクリエーション

週 1 回木曜日、患者が興味・関心をもって参加でき、季節を感じられるようなレクリエーションを OT・看護師が中心となって企画・運営している。レクリエーション活動を通じて、集団行動を体験することや、仲間作りを目的としている。

(3) グループ活動

対人関係のスキル・自主性の向上を目的とし、男女に分かれてグループ活動を実施している。

活動には医師・看護師・コメディカルが付き添い、週 1 回 1 時間の定例会で患児が企画した内容を実施している。社会性を育みルールを学ぶことを目的に、集団で公共施設を利用するなど病院外活動も取り入れている。

(4) 家族教室

発達障害を持つ患者の家族を対象に、情報提供と家族交流の場を提供する家族援助を目的とし、年 2 クール（5 回/1 クール）実施した。「疾患についての医学的知識」「子どもへの対応法」「教育現場における資源について」「社会資源について」の講義及びグループワークを実施した。5 回目は茶話会を行い、自由に話し合う時間としている。

(5) ペアレントトレーニング

小学校低学年の ADHD の子どもを持つ家族を対象に、環境調整や子どもへの肯定的な働きかけを学ぶとともに、保護者や養育者の関わり方や心理的ストレスの改善、子どもの適切な行動の促進と不適切な行動の改善を目的に開催している。全 11 回を 1 クールとして具体的場面を設定したロールプレイを行うことで、子どもとの適切なやりとりを身につける機会としている。

(人)

プログラム	開催日	回数	患者	医師	看護師	療養援助 他
病棟ミーティング	毎週水曜日	45	490	38	56	57
レクリエーション	毎週木曜日	46	706	58	90	107
グループ活動	毎週月曜日	44	741	94	90	157
家族教室	不定期土曜日	10	69	3	22	7
ペアレントトレーニング	不定期金曜日	11	54	22	37	21

<まとめ>

- 1 病床利用は 94.6%であり、昨年度より 7 ポイント上昇した。病棟運営会議にて毎週入退院状況を確認し、ベッド調整を行うと共に、他病棟への緊急入院患者を早期に受け入れられるよう連携を図り、転棟調整を行った。
- 2 新型コロナウイルス感染症による一時的な病棟閉鎖が発生した。感染状況に応じた入院制限、面会制限、感染症発生時の対応を行うと共に、感染防止対策強化に取り組み、短期間で解消できた。
- 3 新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことから、昨年度まで開催できなかったペアレントトレーニングや、完遂出来なかった家族教室を対面で実施することが可能になった。
- 4 埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校との情報交換会を毎月 1 回開催し、学校との情報共有を図った。また、毎月の学校病棟連絡会では、学校と病棟との連携を図った。

4 第6病棟

<病棟機能>

- 精神科救急急性期医療入院料算定の認可を受け、夜間・休日の緊急入院を中心に埼玉県精神科救急医療体制整備事業を補完する病棟である。
- 医療観察法の鑑定入院・特例1・特例2を受け入れている。
- 早期退院に向けてチーム医療を行い、地域への医療の継続性を図る。

<病床数>

保護室	20 床
個室	30 床
2 床室	－
4 床室	－
計	50 床

<スタッフ>

医師	6 人
看護師	33 人
精神保健福祉士	2 人
公認心理師	1 人
作業療法士	1 人

<活動報告>

(1) 服薬SST

病気と薬の作用についての情報を提供し、入院前の精神状態を現状と比べながら振り返ることで、アドヒアランスの向上を目指す。

(2) 病棟懇談会

集団内の対人関係の相互作用を用いて、対人場面での不安や葛藤の除去、患者自身の精神症状・問題行動に関する自己洞察の深化、対人関係技術の習得をもたらして症状の改善を図る。

(3) レクリエーション

レクリエーション活動を行い、他患者・スタッフとの交流を通して対人関係を学ぶ。

プログラム	開催日	回数	患者	医師	看護師	療養援助	参加合計
服薬SST	毎週火曜日	23	32	0	46	0	78
病棟懇談会	第1・3木曜日	19	135	16	23	32	206
レクリエーション	第2・4木曜日	20	139	2	31	28	200

<まとめ>

- 1 病床利用率は昨年度より上昇し 82.7%だった。安定した病床利用率を確保できるよう感染対策を徹底しながら他病棟と連携し入院を受け入れていく。

- 2 病棟懇談会やレクリエーション、服薬 S S T は、密を避ける事やマスク着用の徹底等の感染対策を強化した上で開催した。
- 3 緊急入院を常時受け入れる体制の維持に関しては、病棟運営会議や病棟間調整会議の際に 6 病棟の病床利用状況を共有し、他病棟への転棟の検討を行った。主に 1 病棟との連携を強化し、6 病棟の保護室利用状況によってタイムリーな転出入を図った。また、プライマリーナースが退院支援委員会に確実に出席できるよう多職種と連携して調整し、プライマリーナースの出席率は 100%を達成した。計画的な退院支援につながるよう看護に反映することが課題である。

5 第7病棟

<病棟機能>

- 医療観察法の対象者に入院医療を行う専門病棟である。

<病床数>

保護室	2 床
個 室	31 床
2 床室	-
4 床室	-
計	33 床

<スタッフ>

医 師	6 人 (兼務 4 人)
看護師	43 人
精神保健福祉士	2 人
公認心理師	2 人
作業療法士	3 人

<活動報告>

	プログラム	内容	回数 (回)	参加人数(人)				
				対象者	医師	看護師	療養援助	その他
ミー テ ィ ン グ 系	全体ミーティング	集団の場に慣れると共に、対象者全員とスタッフによる話し合いを行う。	18	447	14	179	72	0
	朝の会	生活リズムを整え、自分自身の病状、体調、気分、意欲を確認するため、各ユニットで毎朝各自の報告が行われる。	231	6,090	0	1,904	947	0
	ユニットミーティング	対象者同士の信頼関係づくりやコミュニケーション能力等の向上のため、ユニット内で生活上の問題やルールを話し合う。	29	727	0	236	142	0
認 知 行 動 療 法	サクラソウ	治療の導入を円滑にする。	26	9	4	38	4	0
	ケヤキ	疾病理解を促し、服薬に対するアドヒアランスを向上させ、集団での協調性を養う。	7	4	2	13	7	2
	やわらか頭	自身の認知機能の傾向を知る機会とする。	15	55	0	10	27	0
	SST	日常生活技能獲得・対人交流技術向上を目的に対人関係場面の練習等を行う。	17	66	0	36	22	0
再 他 害 行 為 防 止 系	シラコバト	再発を予防し、生活能力を再獲得することを目的に行われる。	15	5	0	30	15	0
	emo 活	日常生活の中で生じる自身の感情と行動・態度が繋がっていることに気づく目的で行われる。	11	23	0	11	11	0
	内省（放火防止）	対象行為に対する内省深化と再発予防を目的に行われる。	20	60	0	20	40	0
行 為 別 対 象	物質使用障害	再使用予防の方策を、講義や互いの体験の話し合いから考え、自助グループへの導入目的で行われる。	20	44	0	39	2	0
社 会 復 帰 促 進	就労準備	自分にあったライフスタイルを考え、仕事をする上で必要なことを知る	21	99	0	33	55	0
	社会復帰講座	退院支援や社会復帰の仕組み等知識を深め、社会復帰の意欲向上を促す。	17	91	0	18	41	2

	外泊報告会	うまくいったことや課題について他者と共有し、互いの学びとなることを目指す。	3	26	1	6	7	0
	マナー講座	社会で生活する上でのマナーエチケットを学ぶ。	2	10	0	2	5	0
	家族ゼミナール	家族が身体的、心理的、社会的な回復を目指すことを目的に行われる。	4	26	2	9	13	0
回復系 元気	レクリエーション	6月 映画鑑賞 9月 運動会 12月 クリスマス 3月 映画鑑賞	4	79	1	11	13	0
その他	看護面接	治療関係の構築、評価のための情報収集、治療の般化を促す。また内省深化を図る等の目的で行う。	273	273	4	299	16	0

<まとめ>

- 1 病床利用率は96.1%であり、目標の97.0%を下回ることとなったが、前年度比では0.5ポイント向上している。年間を通じて埼玉県内に鑑定入院の患者がおり、他県での医療観察法入院処遇となることもあった。しかし、情報交換を行うことで、他県からの転院を積極的に受け入れた。長期入院対象者の退院に働きかけた結果、3年以上入院している対象者が5名となり、平均在院日数は1,160.9日であった。
- 2 心理教育プログラムは集団介入だけではなく、個別介入を取り入れることで、対象者に合わせたプログラム内容となった。
- 3 レクリエーションでは、感染対策のため中止していた映画鑑賞以外の運動会やクリスマス会を3年ぶりに開催し、対象者だけでなく病棟全体で楽しむことができた。